夕刊　磐城新聞
一月二十六日發行
〔日曜祭日翌日休刊〕

漫筆餘瀝

小野生

▽小名濱新舊町長の送迎△

先代小野賢翁漁港の修築に奔走し更に商港の築地を作つた、其種子が現代新町長縣會議員在任中に實現しぬ、小名濱が築港に依つて生死が岐るゝとせば、小野家はその分岐點に立つ小名濱を蘇生せしめたと云ふも決して過言でない。

茲に町民諸君の了解を覚む必要がある、多くの一町村に於ける有力家と稱するものは、公共的に奔走する仕事は先後一代が關の山じあらう。然るに二代然かも休戚に係る町の大問題に私財を投したる事は何と云ふても小野新町長の賜物である。

然し之れあるが爲めに町民は擧つて其就任を歡迎するのだと言へばそれ迄だが決して之う簡單のものではないと思ふ、其理由は

先第一に坦々たる平和の道程に居ない、現在の經濟的世相を眺めねばならぬ、現在の小野町長の關係する事業は賓浩汎のもので何れも彼氏の手腕を待つものが踵を接して居る、此れのみで普通人の持て餘す筈であるのに更に急難に向つてある町の長たる可く其衝に當らしむる事は如何に慘酷であるかに想當せねばならぬと思ふ。

一彼氏自身も自治的に專門の技能を有するものをして當らしめたい希望を以て居つた事は疑ひない、然るに輸入は一切之を免さすとの鄙論の意見の爲めに竟に其所任を餘儀なくされたと云ふ形…るが、そこに充分の餘裕がある。

眞に小名濱町を憂ふの士は專心當らしむべき專門家を迎へて椅子を與ふべきである事が尤も時宜に適した方法であると言はねばならぬ、從來のごとく脂暖まる寸暇なき活動に對して、果して能く町政を變理し得るかが重點である。

人の精力には各々程度がある、活動性に富むの所以を以て一切合財を其人に任せんとする事は人物を大ならしむる爲めにも無理があると思ふ、よろしく町民諸士は、この機微を捕へて、彼氏の將來に過ちなからしめん事に滿腔の後援を送る事を忘れてはならぬと考ふるものである。（一月二十三日稿）

川口

萩谷榮三

○落葉して木した明るき山に入り神に供へん榊手折りつ
○松山ゆ出で來し老婆の背負ひたる松葉の束は時雨にしめれる
○夕すでに小暗き川を上り來る漁船に赤く焚火は見ゆれ
○次々に入り來る船に立ちさわぐ川口の波夕べゆゝしき

春の訪れ

中川浩

だんだん狹められて
小ちやな武さし野
僅かばかりの瘠せこけた
雜木林に
武さし野のおもかげが
ちよつぴり殘つてゐた
雜木の新芽の甘いかほりに
武さし野の春が生れる
瀰ほてゐた多摩川に
雪どけ水があふれて
ほんとうに春が來たんか
川原の猫柳が銀色のうぶ毛に
つゝまれてはにかんでゐる
のん〳〵と萌えてゐる青草の土堤に
ねころんで私は新鮮な春の訪れをきいた。

頭痛

えいさぶらう

貧血症は
赤井嶽にうづいてゐる
眞紅なストーブに
熟ぎつた女性のぬくもり
熟れたザクロの
眞紅な頭痛が
ひく〳〵と襲ふ
割れそうだ
破れそうだ
甘ずつぱい
ざくろの味がする。

大衆語釋

○（切磋琢磨）熟語に用ふ。切磋は骨角を切りて之を磋きて細工物となし、琢磨は玉石を治むるものは玉を槌で打ちて形を作り石で磨きて其の美を現出せしむ、以て學問道徳に勵むるを云ふ。

紀念の今日

1月27日
△源實朝殺さる（承久元）△碧蹄館の戰（文祿二）△米國横濱に應接の假館を設く（安政元）△上海事件險惡我が艦隊膺懲準備を開始す
（昭和七）△吉林軍と反軍、ハルビンで激戰△ハルビンの反政府軍邦人十餘名を虐殺

吉田眼科病院

○

寒の内佛の花に樒かな　柏葉

北屋根の雪に雀がにぎやかだ、妻よ今日は洗濯にいいぞ　渡邊杜水

拈華微笑

練習

局の火事。火の配達と來なくて助かつた ◇ モシモシでは間に合はぬので交換孃が縄梯子の ◇ 買り初め、買ひ初め、萬引初め檢擧初め。慌しいあすの平町 ◇ 永遠に戻らないと娘の遺言。處女に、だと思つたら家にだと ◇ メーキャップの町に賣り出しの旗關顋。紛ふ方無き舊正月氣分

講談 蘭陀お蝶

（236）　渡邊默禪作　布施長春畫

『左樣か、紐なら切れた方がえゝサ、切つた方がその方の身爲であらうぞ、ドリャ歸らう』

謎の樣な捨てせりふを云つてぱたと袖を拂つた

歸つて行つてからホッと息を吐いて、いきなり鎧櫃の側へ駈寄つて手早く蓋を刎ねると、中ではお蝶が眼を眞紅にして泣いてゐる

『もう可い、出ても大事ないぞさあ、早く出い、無窮な事であつたらうな』

『いえ〳〵私出まへん』

『な、な、何故？』

『そおやとて、此處を出たらが最期可厭な館へまた歸らねばなりまへん、歸さる程ならいつそ此の中で死んだ方が勝しどす、私死ぬのや死ぬのや』

身悶えして泣く

『又左樣なことを申して困らせる、よろいびつの中で死なれてたまるものか、たわけめ』

手を取つて無理に引き出すと、お蝶はよろ〳〵しながらべたりと頽れた、頽れながらも左の手を取つた男の手へ右の手を犇と取縋つて涙で潤む黒目で恍然と見上げて

『あなたはん、如何してお呉んなはるお氣だやいな』

と、哀れな聲で云つて其の手を振つた

『む……』

鵬馬は覺えず身顫ひした

×

『サテ〳〵早野氏、早野氏！』

京は三條通りのお倉丁、銀座後藤屋敷へ曲らうと云ふ街角で先に行く町方同心らしい男を呼止めたのが茶道の宗哲であつた

此の男は早野信太郎と云ふ東町奉行組三番の年寄同心であつて宗哲とは近頃から心惡い仲になつたのだと云ふのは宗哲が茶道生花指南で重に公卿屋敷へ出入してゐるのを見込み、役目柄要上人の動靜を探らうと云ふ道具に使ふ爲めで——其の頃は幕府の處置に對して不快の念を抱く公卿衆に內々穩かならぬ氣配の見えた時分で幕吏は專ら警戒してゐた。

角顔の觀骨の出た眼つきの怪しい容貌で同心社會には老巧の先輩と推され、たんこぶ太郎と云ふ渾名を自慢にらく中に羽を伸してゐた腕利だつた、それは右の顳こめがみの近くに茶碗大のたんこぶが出て長い一縷の毛がツンと其の上に揺いてゐた、此の怪異な看板が無黨者浮浪人などの目に虎の牙よりも恐ろしく見えてソレたんこぶ太郎が來たと云へば一町先から逃げ出す位であつた。

『いや誰かと思つたら宗匠か』

薄氣味惡くにこついて

『いゝ所で出會つたな、どうだ一件の方は何ぞ變つたことでもあるかな』

『アハ……直と彼箇だ、商賣にかけてもナカ〳〵の熱心、いや恐れ入つたものだ！』

茶の角頭巾の黑の十德、尻を端折つて千鳥の股引を出した宗哲が片手に持つた花を日に當てまいと蔭に外らして

『種がないでもない、お註文のお口に適ふか、何だか知らないが、餘程變つた奴を堀り出したがな』

『それは耳寄りだ、ど、どんな事だ、善は急げだ、ちよつと話して呉れないか』

『此處でか』

『幸往來もないから恰ど好い、何だ宗哲』

『エ、實は貴公のお住居へ參つてお話しようと思つたんだか』

とまへおきして信太郎の耳端へ口を寄せた。

ラヂオ

二十七日（金曜）　仙臺 JOHK

△前七、〇〇　八、〇〇A　ラヂオ体操
△九、〇〇　氣象
△九、一〇H　料理献立（波穣のスープ）松本良雄　日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座（林檎に就て）藤本薫
△正午　時報　氣象
△後〇、〇五B　尺八吹奏　上田蕉堂　竹堂
△〇、四〇A　ニュース
△二、〇〇A　婦人講座（俳句に培はれる日本魂）長谷川かな女
△三、四〇　氣象
△四、〇〇　ニュース
△五、三五A　受驗講座（和文英譯）岡田實麿
△六、〇〇B（子供の時間）童話劇（母の愛）大阪外國語話劇研究會
△六、二〇　コドモのシンブン　村岡花子
△六、二五A　英語講座（初等科）岡倉由三郎
△六、五五　カレント、トピックス　ハロルド、パーマー
△七、〇〇　ニュース　氣象　積雪量
△七、三〇A　講演（蒋府國際外交戰を巡りて）畑耕作
△八、〇〇　長唄（靭猿）芳村伊三郎　辰三郎　甲千十郎
△八、三〇H　小唄　立花家金八
△八、五〇B　大衆物語（探偵怪奇…松五郎捕物帳の內…幽靈櫓太鼓）桑島狹衣
△九、三〇A　時報　ニュース　氣象

廣告

平町六丁目　本村醫院　電話三〇九番

cafe　喫茶と食事　奇昇　聚樂館南隣　電話四六番

舊正月二日三日　中野洋品店の景品付初賣出し
福運　商品券
常に在庫品豊富を誇る弊店は市價數割安の優秀品を奉仕提供致します

開店廣告
イヨイヨ懸案中ノ『曙』ガ今日カラ開店致シマス御贔負ヲ願マス。
生粹江戸風ノ『釜めし』一釜金貳拾錢
時節柄特別勉强致シマス。
氣持ノ良イ小座敷御同伴歡迎致シマス
仕出しスグ配達いたします。御用命願ひます
田町賓川醫院裏　あけぼの　電話二八二番

各位樣
毎度御ひいき有難ふ御座ゐます。
うなぎ御用命は
うなぎ奴
ホール御座敷の設備あります。皆樣の御立寄を！
平町田町（電話二二番）

暴騰をよそに超廉賣!!
斯界の權威……大塚靴
◎學生靴　自製耐久無比　ボックス半靴 五圓より　同編上靴 六圓より　女學生通學靴 五圓より
◎紳士靴　弊店自慢の製法と新形流行の魁……
▲絶好の御買ひ時…
大塚製靴部　平・田町　電話七十七番

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三　大水庵華道教授　岡田華悦

正月二、三、四！三日間景品進呈（午前二時ヨリ午後六時マデ）
江島屋のサービス大賣出し
値段は絶對的安價景品付大奮發！防寒具の御用命は是非江島屋へ
江島屋洋服店　平町三丁目（西村屋向）電話八九番

吉例　景品付大賣出し
平素の御引立に酬ゆる爲め奉仕品を豊富に取揃へ年一回の御得大提供！
舊正月二日、三日の二日間
ふかや洋服店

淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は殘藥引かに全部返金す）
岩里別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓　黒箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渇に奇蹟的効果ありどんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂
平町三丁目北裏通り　代理店　渡邊いと
（特約店募集）

御贈答に！記念品に！諸景品に！　漆器を!!!
專門の共は誠實勉强親切第一在庫豊富
ドコヨリモ、ヨイシナヲ、ドコヨリモヤスクウル、ヌリモノミセ
平町三丁目（元郵便局裏通り）
各國産漆器　專門卸小賣　共漆器店
店員募集　十三四才位、小店員　三十才位迄、外交員

專門　一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス　呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所　醫學士 川井重之　女醫 川井安子

明日ぞ恒例の買初めで全町ゴツタ返しの人出

興味を唆るインフレ景氣の反映

二日の買初は愈々明日に迫つたが平町各商店では當日が一年中の縁起日であり且つ藏拂ひの書き入れ時でもあるので早くから店內、陳列窓の裝飾と販賣方法に腐心し既に陣容が整つたので今夜は早くから大戸を卸して徐ろに英氣を養ひ、十二時頃飛び起きて、寒天に響いて來る下駄の音に耳を澄ますと云つた段取りであるが之のインフレ景氣が如何響くかは相當興味を持つて見られて居る

各店頭の萬引監視に私服警官張り込む

交通整理も滿全を期す

芋の子を洗ふ如き雜沓に紛れて明日の各商店頭には掏摸、萬引、置引、詐欺犯が出沒するので平署では例年通り管內巡査を召集し私服警官を增員して各商店に張り込ませると共に町內要所の交通整理をなし其間遺漏なきを期する事となつた

三大炭鑛十萬圓寄附問題漸く目鼻つく

鈴木代議士縣へ打電

小名濱商港修築問題に就て縮少計劃に關する還元運動に主力を盡してゐる鈴木代議士は目下開會中の帝國議會に出席し乍ら近く召集に內定してゐる臨時縣會を目前にして計劃還元の有力財源となる常磐三大炭鑛の寄附金十萬圓の醵出交涉に就て日夜席温まるの暇無しと云ふ狀態であり上野の鶯谷旅館に陣取つて午前は炭鑛交涉に午後は議會へと大車輪で一昨二十四日は三大炭鑛の中心となる磐炭本社に前川專務取締役を訪問し最後の交涉をなした結果漸く醵金十萬圓に自信を持ち卽日縣に打電して知事又は內務部長の出京方を促す迄になつた

渡滿部隊通過

感激的な今日の平驛頭

弘前部隊滿洲派遣兵〇〇〇名は今二十六日午前九時六分常磐線上りで平驛着在鄕軍人會、青年團、靑訓生、消防組、愛國婦人會、町議小學校兒童、その他各種團體の盛大な見送りを受けて同九時十五分同驛を發したが引續き後續部隊〇〇〇名も同樣嵐の如き歡呼に迎へられて同十時五十分到着、婦人會員から麥茶の接待を受け小憩後同十一時驛頭をどよもす萬歲聲裡、小國旗の波に送られて出發した

は明二十七日行はる平商

吉富少將來平

第二師團司令部附吉富少將……敎練査閱視察の爲今二十六日午後六時半で來平

○○○○○磐中軍敎查閱　今二十六日午前九時から若生中佐により執行された

地方民の熱望達成 中の作漁港起工式

し經費十五萬圓を投じて着工される石城郡江名町中の作漁港修築起工式は三十日午前十時同町にて擧行されることになり町は協贊會を設けて準備中

今年の艦上點呼

六月五日執行の豫定で　巡洋艦木曾小濱名入港

本年の縣下海軍艦上點呼は二等巡洋艦木曾(五、五〇〇噸)が六月五日小名濱入港の上執行の豫定であるとで海軍々樂隊の音樂會と海軍思想普及の講演會を催すべく計劃中なるものの如く當局の事情にして許すなら云ふが茨城縣では同三、四の兩日湊沖に碇泊中水戸市ば當地でも何等かの催しがあるではないかと豫想さる

流石は不燃性建築物！

昨舊大晦日宵平郵便局の火事騷ぎ　大事に至らず鎭火(損害約千圓位)

昨二十五日午後七時四十分頃平郵便局小使室から發火したが未だ幸に宵の口とて發見が早かつたのと鐵筋コンクリートの不燃性建物だつた爲同室天井裏約二十坪を全半燒し同八時十分鎭火した、損害一千圓、原因目下取調中であるがスチーム用暖爐から傍らの柱に燃え移つたものらしい、尙ほ鎭火が恰も舊大晦日の一盃時刻とて酒氣を帶びた多數野次馬が群がり寄つたが警官と火の機敏な活動に依り極めて迅速に非常線が張られさしたる混雜を見ずに濟ん防組員だのは近來の大出來だつたと云はれて居る

縄梯子常置　平局では昨夜の火災により電話交換室からの避難方法を講じ置く必要を痛感し今後は梯子の訓練その他之に備へる事になつた

昂る！騰る！物價に勞銀は舊態依然

漸く一部に生活難の悲鳴

平町役場最近の調査に係る物價及勞銀左の如く物價はインフレ景氣から昨年同期に較べ金物の六割を筆頭に悉く騰貴せるに反し勞銀は舊態依然たる有樣なので漸く各方面に生活難が叫ばれ始めたやうである

△物價—小麥一四、〇〇　大豆一四、五〇　小豆一九、八三　淸酒九〇、〇〇　醬油三五、〇〇(各一石)　味噌五〇　鰹節七、〇〇(一貫匁)　茶五六、〇〇　牛肉五二、〇〇　白砂糖二二、九〇　赤砂糖一六、九三　繰綿四〇、〇〇　麻六〇、〇〇　洋釘九、八〇(百斤)

△勞銀—塗師、染物、和服、仕立、菓子製造、下駄職、馬具各四五錢(賄付)　日雇六〇　洋服仕立、指物、經師各七〇　疊刺、車製造、桶職各八〇　活版植字九〇　木挽、大工、左官各一、〇〇　瓦葺、家根葺各一、二〇　鍛冶一、三〇　石工、鑄物各一、四五　煉瓦積一、八〇

磐中人國記 (四三)

赤井嶽男記

第五回生の巻 I

◇石田氏の大仁政

記述は巢立ち當時の成績をカムフラジユしたいろは順の名簿を追ふ事例の如しであるが所謂銘々傳となると、相變らず槪ね乾燥無味なる事を豫め諒解願ひ度い

先づイの一番石田宗清氏(双葉郡大野村)と來る。揭士時代から實直そのもので通つた氏は一年志願の工兵少尉として鄕黨に重きをなし孜々家業にいそしんで居ると云ふ外語るべき多くの材料を殘して居らぬが磐中寄宿舍に於ける最初のチフス患者として、全校生徒に對し三日間臨時休校の一大仁政を布いた事など今尚ほ當時を偲んで嬉しがつてる不良が少くない。

◇長谷川氏の憂鬱

學資を仰いだ關係上、頻りに晨を告ぐる牝雞の横暴に世の中が味氣なくなり別な方面に逃避して纔に憂悶を遣つた日本醫專出の長谷川林太郎氏(好間村)は當時こそ五月蠅い褒貶の話題に上せられた事も一再では無かつたが今では商船乘組のお醫者さんとして沖の鷗に潮どきを問ひ乍ら何れかと云へば暢氣な生活を送つて居る。

◇生き字引細谷氏

赤井出身の騎兵特務曹長細谷三郎氏は參謀本部庶務課の生字引として無くてならぬ人であつたが近刊の職員錄に其名の見えぬのは適當な處に居をトして氣樂な恩給生活にでも入つたせいか?。

◇若松少佐と密書

其頃二丁目大一屋隣りの高田屋に居た若松茂平氏(大浦)は、其後鐵道に勤めて若死にをした金成秀次氏(舊姓山崎)から落花狼籍の密書を見せられた爲に急に頭が痛くなり布團を冠つて寢込んで了つた程の大人し屋であつたが士官學校へ入つて中尉當時憲兵に轉科し甘粕大尉らと同年級で震災當時は白山の分隊長として大に活躍した、令閨が二丁目白土屋の愛娘である關係から一時高月附近に住宅地を求めたが今では舊任地の大阪市湊區に豫備憲兵少佐として在鄕軍人分會長などをしてゐる。

◇辻石城鄕友會長

長谷部公州地方法院長の事どもは既記寫眞入りで失敬の通り、次に澤渡出身の辻文喜氏(舊姓加藤)も若松氏同樣士官學校を出で今は豫備陸軍歩兵少佐の閑日月を仙臺市中島町に在る石城鄕友會の會長として、鄕黨後進の面倒を見乍ら宛然親爺の如く慕はれてゐる。

◇アドミラル猪狩

問題になつた滑稽行列で陸軍士官姿のコンダクタ丁たりし赤井の川隅英一氏は自村小學校に、又風貌が東鄕大將と瓜二つの處から當時アドミラルの尊稱を奉られてゐた猪狩甚三郎氏(双葉郡大久村)は石川郡山形小學校に何れも育英方面に於て而も着實に働いてゐる

肥料共同購入協議

産業組合福島支會では肥料共同購買の實を擧げる爲め縣下十一ヶ所に於て協議會を開催するが各産業組合、町村農會技術員等參會を望むと、なほ議事は各地共午前十時から肥料購買事業開始協議、同十一時から肥料購買計劃協議であるが石城部の日割は二月十六日である

磐女體育部音樂部を去る人々

櫻ケ丘の春に一沫の淋し味

磐城高女今春卒業生中体育部音樂部を去る女性は次の如く例年にない多數である

庭球(平)長瀨タマヱ、石川キヨ(綴)菅本シメ　音樂部(泉)杉下薰子　競技(鹿島)四家ヨシ、吉田フミ　排球(平)泉マサ子、川又カテ、長千枝子、佐藤喜美、渡邊キミ(綴)佐藤タマ子(好間)薗部正子(川部)蛭田フク(勿來)飛田トミ子(四倉)石井滋子　籠球(平)杉本テイ、荒垣トヨ、安積ヨシ、橋本テル、(山田)下山田タイ

高女生志望

進學は師範が最多

磐城高女の今春卒業生は百七十五名で卒業後の志望は師範二部一一、栽縫塾八、醫專、藥學、東京女高師各二、体育專門、大阪バプテスト、共立英學塾、帝國女子專門國文科、音樂學校、實踐研究科、東洋齒科專門、青山學院、簿記學校、家政學院各一、各種職業一四、未定並家事一二六で就職希望者に對し正木校長は差當り代用敎員の勸め口を開拓する以外に途が無いと手を燒いてゐる

自動車事故激減

平署管內に嬉しい統計

從來縣下第一を占めて來た平署管內昨年中の自動車事故は合計二十八件で營業者の注意と當局の取締が徹底した爲一昨年より十三件の激減であるが原因別に見ると小兒の道路遊戲が最も多く次が自轉車荷馬車の衝突、居眠り運轉、定員外乘車、速力超過、無免許運轉、不注意の順である

。。。。。。橋本磐中校長出席　明二十七日から二日間保原中學校で開催する縣立中學校長會に出席のため今二十六日出發した

青訓好成績

出席率七割三分

青年訓練所が設置されて八年目下縣下市町村に於ける訓練所の成績を縣敎育課で調査するに昭和七年の在所生徒數二萬四千二百三十二人であり當然入所せねばなら資格該當者三萬三千二百六十二人に比し七割三分の入所率である一昨六年は入所資格者三萬四千百三十三人に對し二萬三千七百八十二人の入所生でその割合六割九分で前年と比較して良成績で逐年訓練所存立の意義を發揮して來てゐる、更に各訓練所別の成績をみると成績の良いものは頗る良く惡いのになると問題にならぬものさへあるので縣は極力入所を勸誘することになつた、尙在所生徒の出席歩合は七割一分ばかりで良好な方である

赤井嶽賑ふ

善男女の元朝詣り

今廿六日の舊正月元旦はインフレ景氣から附近農村も頗る朗な正月氣分を漂はしてゐるが年中行事の一つである善男善女の赤井嶽元朝參りは昨二十六日夜來今朝にかけて例年通りの賑ひをみせた

『永遠に戻らない』

物騷な遺書に父が吃驚　平署へ娘の搜索願

東白川郡常豐村雜貨商猪俣金子(一九)は繼母との折合が惡く一昨二十四日朝永遠に歸らぬ旨の遺書を殘して家出したが平町方面に來た形跡あるので今二十六日實父から平署に搜索方を願ひ出た

。。。。。齊藤氏の美擧　平町南町齊藤覺治氏は昨二十五日交通事故防止と盲人愛護のため白ペンキ塗杖百本を磐城訓盲院、按摩組合、人事相談所へ寄贈した

六十戸三百六十二人增

。。。。。。平町昨年中の戸口動態

平町昨年十二月末現在の戸口左の如く一昨年に比し括弧內の數字を增してゐる

戸數四、七三九(六〇)　人口二三、六三五(五五)　內男一一、九五一(三三〇)　女一一、六八四(三二)

閑散な舊大晦日

例年なら大晦日には債鬼に追はれる人達で芝居、活動常設館、飲食店、カフエー等は異常な賑ひを呈したものだが昨三十日の大晦日は如何したものか到る處大欠伸で至極閑散を極め營業者は飛んだ當て外れをしたやうである

平町慶弔錄

△出生

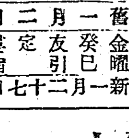
月み町三三大塚欣一郎二女香
四丁目一茨城縣東茨城郡六くわん
町一七七鈴木員次郎二女愛子、
三丁目八東京市下谷區下車坂町三
一增住彌太郎二次敏子

△婚姻

神谷村鎌田綜金澤六二二鈴木富彌(三三)南町二六星恒代(三三)

△死亡

立町三田村郡三春町一本松四五安積志津子(六一)



舊一月二日
金曜　癸巳　友引　定　婁宿
新一月二十七日

賭判定應銘　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　萬事遊んで好しちうちよする時は好機を失はん▲二黒の人　事の大小となく手違ひ生ぜぬ樣注意肝要▲三碧の人　考へれば考へる程不利に陷り行くこんめいの日▲四綠の人　目上の同情ある日躊躇なれば更に貸入あり▲五黄の人　氣に緩みを生ずれば事物停滯し間違も生ず▲六白の人　遠き先をみ越しての計畫は違算あり易き日▲七赤の人　高遠なる思想も凡夫の考に如かず進むは凶▲八白の人　着實に本業を守り一くわく千金を思はぬ樣注意▲九紫の人　思ふ亦は成り行ふ事は順調に進む幸運の日

廣告

木村病院　平町新川町　電話一六四番

高久病院　院長 高久忠　平町田町電五一三

井坂醫院　平町田町　電話五五九番

上田醫院　平南町　院長 上田耕作　電一二九

安齋外科醫院　平町田町　電四七五番

御禮
謝出火御見舞
併て消防各位に深謝仕候
平郵便局

近火見舞御禮
謹啓昨夜近火の際は早速御馳付被下御蔭樣を以て大事に至らず候段難有奉深謝候一々拜趨御禮可申述の處混雜の折柄御尊名伺ひ洩れも可有之被存候に付乍略儀紙上を以て御禮申上候敬具
株式會社福島縣農工銀行平支店
支店長 安部六三郎

昨夜近火の際は早速御馳付け被成下何彼と御高配を賜はり難有奉深謝候一々御禮可申述筈の處乍略儀不取敢以紙上御厚禮申上候
敬白
四丁目 和泉屋旅館

謝近火御見舞
佐藤齒科醫院
平、四倉 乘合營業合同組
小野屋藥局
マツモトヤ菓子店　電話二一四番
鈴木染工場　鈴木富五郎　電話四九二番

內外建築材 建具材
磐城國平町(公園下)
阿部材木店　電話四九四番